



メディカル支援本部 歯科・動物病院支援部
マネージャー

伊藤 崇

視察ツアー参加をご検討の皆様へ

いつもお世話になっております。株式会社船井総合研究所の伊藤 崇でございます。この度は、こちらのお便りをお目通しいただき、ありがとうございます。ここまでの内容は、こちらをお読みの先生に「ワクワク」を届けられておりますでしょうか？ 私自身、ひまわり歯科様へ見学に行った際は、大変衝撃的でした。スタッフ皆様が主役で、地域を真ん中に置いた医院様方針。これが全く「飾り」ではなく、ここまでの現地でできている歯科医院様を、私は17年の歯科業界キャリアの中でも随一で、圧倒的でした。あの見学の衝撃は、今でも胸を熱くさせます。そのため、この度は船井総研として、ひまわり歯科様の視察ツアーを企画するに至りました。私からも全力でオススメする、ひまわり歯科様の視察ツアー。当日会場で先生とお会いできるのを楽しみにしております。

実際に何が見られるの？

当日の内容

① 地域支援型多機能歯科診療所におけるひまわり歯科の組織づくり①

医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科 理事長・院長 岡本 佳明 氏

2040年問題の解決に挑戦し、スタッフ人数約140名、1日約250名の患者様が来院する「地域支援型多機能歯科診療所」のひまわり歯科の開業から25年の軌跡と秘訣とは？

- 歯科業界における2040年問題とは？
- スタッフ誰もが輝ける。人で溢れ続ける組織づくり
- 大型歯科医院に成長するまでに経験した数々の課題と解決方法
- 理念の浸透、組織力を高めるための取り組み
- 副院長はじめ、次世代幹部スタッフの育成の仕組み
- 医療業界の次世代を輩出し続ける教育体制



② 地域支援型多機能歯科診療所におけるひまわり歯科の組織づくり②

医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科 副院長・外来長 樋山 めぐみ 氏

勤務歴14年を超え、理事・副院長・外来長としてひまわり歯科をどう考え、どのような役割を果たしているのか？ 次世代の副院長や歯科医師たちも育て、理念の浸透や施策の実行まで行う源泉をお話いただきます。

- 単独型臨床研修施設まで果たす歯科医師の教育システム
- 幹部社員に必要なスキルと心構え
- 医療業界の次世代を輩出するための教育
- 理念浸透を実現するために、幹部社員がとるべき行動指針と発言
- 歯科医院の副院長に真に求められる役割

③ 学びのポイントと振り返り

株式会社船井総合研究所 若木 伸文 / 株式会社船井総合研究所 伊藤 崇

視察先である「ひまわり歯科」が軸としている「教育機関」「社会資本」「組織風土」は、どのように浸透し、持続的成長につながっているのか。誰もが輝き、誰もが通いやすくなる歯科医院をどのように実現できているのか。見学で実際に学んでいただいて内容のポイントを最前線で活躍するコンサルタントが徹底解説します。

- 船井総研が考える2040年問題への解決アプローチ
- 持続的成長を果たす人、組織、風土づくりのポイント
- 視察ツアーを通じて明日から実践していただきたいアクション

Time Table

9:30	受付開始 @広島コンベンションホール
10:00	集合 @広島コンベンションホール
10:30	講演 @広島コンベンションホール
12:30	移動 広島コンベンションホール→ひまわり歯科 スタッフによるオープニングセレモニー 昼食 ひまわり歯科視察
16:00	移動 ひまわり歯科→広島コンベンションホール
16:30	講演聴講 @広島コンベンションホール
17:00	現地解散

※上記予定は変更の可能性があります。
※集合、開会、閉会時間は変更ありません。

お申込み締切日 2024年11月13日(水) 23:59まで

開催4日前までに下記記載の振込先口座へご入金いただきますようお願い申し上げます。

《お振込先》三井住友銀行(0009) 近畿第一支店(974)
普通 No.5785747 口座名義:カ)フナイズウケンキョウシヨ セミナーチ

お申込み取消時期	取消料
開催日の前日から起算して11日前まで	いたしません
開催日の前日から起算して8~10日前まで	旅行代金の20%
開催日の前日から起算して2~7日前まで	旅行代金の30%
開催日の前日	旅行代金の40%
開催日の当日	旅行代金の50%
ツアー開始後の解除または無連絡不参加	旅行代金の100%

●お客様の都合で、ご参加を中止される場合は、左記の取消料をお支払いいただきます。●ご参加を取り消される場合は、事務局宛にメールまたはお電話にてご連絡ください。キャンセル期日以降の取り消しの場合はキャンセル料として申し受けますのでご注意ください。●ご入金の際は、税込金額でのお振込みをお願いいたします。銀行振込の場合はご入金確認後、お送りする案内(メール)をもってセミナー受付とさせていただきます。お振込みいただいたにも関わらずメールがお手元に届かない場合や、セミナー開催4日前までにお振込みできない場合は、下記お申込み担当者へご連絡ください。なお、ご入金確認できない場合は、お申込みを取消させていただきます。●お振込みは同行いたします。●最少催行人数10名(出発日から5日前までに最低催行人数のご予約がない場合は中止とさせていただきます。●)●会員価格は、各種経営研究会・経営フォーラム、および社長onlineプレミアムプラン(旧FUNAIメンバーズPlus)へご入会のお客様のお申込みにも適用します。●詳しい旅行条件を説明した書面をお渡しいたしますので、事前にご確認の上、ご契約ください。●当視察セミナーでは、当社が手配した交通手段以外でのご参加はご遠慮いただいております。

※諸事情により、やむを得ず会場を変更する場合がございます。会場はメールにてご連絡ください。また最小催行人数に満たない場合、中止させていただく場合がございます。尚、中止の際、交通費の払戻し手数料等のお支払いはいたしませんので、ご了承ください。●移動中の交通事情により解散時刻がずれ込む場合がございます。ご了承くださいませ。



Webからのお申込み

右のQRコードを読み取り、サイトからお申込みいただくか、下のURLからアクセスしてお申込みください。

視察ツアーWebページ <https://www.funaisoken.co.jp/seminar/120401>



お問い合わせ 船井総研研究会事務局 E-mail: f_d_i@funaisoken.co.jp

※お申込みに関してのよくある質問は 船井総研FAQ と 検索 しご確認ください。

※お電話・メールでの視察ツアーお申込みは承っておりません。

[TEL]03-4223-3166(平日9:30~17:30) 内容に関するお問い合わせ:榎本 徹也(エノモト テツヤ) 申込みに関するお問い合わせ:森林 優友(モリバヤシ ユウウ)

旅行企画・実施 東京都知事登録旅行業第2-6793号 株式会社船井総合研究所 東京ミッドタウン八重洲 二丁目2番1号 東京ミッドタウン八重洲 八重洲セントラルタワー35階 TEL: 03-4356-0271 FAX:03-4546-0271

医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科
ひまわりカフェ×タニタカフェ
認定栄養ケア・ステーション

組織力・PMVV・理念大賞
受賞

歯科経営研究会
FunaiDentalInnovation

超高齢化、採用難、
歯科医師不足、
地域医療の危機など、
確実に訪れる「2040年問題」を
見据えて、仲間を集め、共に学び、
地域の他の歯科医院とも共生する
地域支援型多機能歯科診療所
(15次歯科医療機関)
の歩みと現在地を体験する！

スタッフ3名で開業して25周年
単院通年10億円ベース、月間7000名を診療する
日本最大級の歯科医院を見に行く 視察ツアー in 広島

ひまわり歯科の25年の軌跡

地域や仲間と共に持続成長する
巨大歯科医院はどうして作られたのか？

スタッフ人数	現在
43名 内研修生12名	140名
歯科医師 2名 歯科助手 2名 医師(歯科専門) 1名	37名 歯科衛生士 4名 歯科技師 4名 メンタル コンサルタント 1名
受付 6名 看護 6名	保育士 10名 事務部門 10名 管理栄養士 7名 清掃スタッフ 5名

人が集まり、育ち、組織が成長する理由
ひまわり歯科の
ココが凄い！は中面へ

開催日時 2024年11月17日(日)
10:00集合
17:00終了
(受付開始9:30~)

一般価格	1人目	2人目以降
100,000円 (税込110,000円)	80,000円 (税込88,000円)	48,000円 (税込52,800円)
会員登録	1人目	2人目以降
60,000円 (税込66,000円)		

主催

歯科医院視察ツアー2024<単院 西日本最大級の医療法人>



サステナブルな成長を促す。株式会社船井総合研究所
〒541-0041 大阪市中央区北浜4-4-10
船井総研大阪本社ビル

お問い合わせNo. S120401

お申込みはQRコードから



当社ホームページからお申込みいただけます。船井総研ホームページ www.funaisoken.co.jp (右上検索窓に右の「お問い合わせNo.」をご入力ください)

120401 Q

THIS IS ひまわり歯科

地域支援型多機能歯科診療所

歯科医師臨床研修 単独型臨床研修施設・管理型臨床研修施設
日本障害者歯科学会 専門医研修施設・認定臨床経験施設
日本歯科麻酔学会準研修機関
認定栄養ケア・ステーション



笑顔100年つながり愛

赤ちゃんからお年寄りまで、
安心して通える医院づくりを行なっています



医院紹介と開業からのあゆみ

海田町



地域医療を支える 役割を担っていく

「ひまわり歯科があつてよかった」と、
患者様だけではなくスタッフや近隣の同業者からも、
思ってもらえる「つながり」を大切にしたい医院です。
将来的に地域医療を支える役割を担っていく
診療所を実現するために、
下記3つのコンセプトを掲げています。

教育機関

社会資本

組織風土

医院紹介
ムービー



医療法人社団 湧泉会 ひまわり歯科のココが凄い

売上高



管理患者数の推移



訪問歯科診療



従業員数



教育体制

単独型・管理型・協力型歯科医師臨床研修施設
日本障害者歯科学会(専門医研修施設・認定臨床経験施設)
日本歯科麻酔学会準研修機関

併設事業

医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科 認定栄養ケア・ステーション
ひまわりカフェ×タニタカフェ
歯科衛生士学校(2027年4月開校予定)

医科歯科連携件数



担当コンサルタント 解説

医療機関において、持続的な業績向上や組織の拡大は、提供する医療そのものの品質向上が基本となります。その上で、集患・固定化・単価向上を図るマーケティングの視点、施策が必要ですが、それらを実行するためには組織力や人材力が欠かせません。ひまわり歯科は、業績の成長率もさることながら、患者満足度調査を行えばたった1カ月で1,200件を超える患者さんの声を収集し、具体的な改善策に落とし込み、口腔衛生の啓発活動としてケア用品の提案強化を行えば250万円/月を超える実行力を見せる、など、高い組織力のなせる例を挙げれば枚挙に及びません。全国68,000件とその数が多いといわれる歯科業界においても、トップクラスの強み、魅力をお持ちです。



医療法人社団湧泉会ひまわり歯科は、1999年に安芸郡海田町にてチェア3台、スタッフ3名で創業し、今年で25周年を迎える。単独の歯科医院としては大規模な診療台22台、従業員数140名を擁し、一般歯科に加えて、インプラント、矯正、摂食嚥下、口腔検査、全身麻酔といった専門性の高い診療を行う。また、医院近隣における地域包括ケアシステムの構築の一環として、2010年から訪問歯科診療、2014年から障害者歯科や医療的ケア児の診療にも取り組んでいる。その他、日本栄養士会の認定栄養ケア・ステーションやタニタとコラボレーションした健康フレンドリーな食事を提供提案するカフェの併設など、海田地域に根差し、地域住民に向けたポピュレーションアプローチを図るべく、食生活支援から医療の向上まで、幅広く貢献できる歯科医院を目指して活動を行っている。

- 1999年 ● ひまわり歯科開業(広島県海田町)
- 2005年 ● 保育士による託児開始
- 2010年 ● 同町内に移転(現本館)
- 2011年 ● 医療法人化(湧泉会)
- 2016年 ● 空き家活用事業(矢野の家)
- 2017年 ● 新館増築
障がい者歯科専門エリア増築
全身麻酔開始
- 2019年 ● 医療的ケア児訪問診療開始
暮らしの保健室「すまいる」
- 2020年 ● 認定栄養ケア・ステーション運営開始
「ひまわり健康食堂」スタート
食べれる外来開始
- 2021年 ● 一般企業と「食食用マスク」共同開発販売
(コロナ感染予防事業)
- 2022年 ● NPO団体「日本こう食う医療協会」立ち上げ
山間部診療への取り組み開始
ひまわりカフェ×タニタカフェオープン
口腔検査室運営開始



なぜ、ひまわり歯科には人が集まり、輝くのか？

仲間とともに前進するための 進化する理念・PMVV経営と組織づくり



担当コンサルタント 解説

単院に多職種が140名、と聞くと、「うちには関係ない大きな医院の話」と考えてしまいがちですが、ひまわり歯科ははじめはスタッフ3名、チェア3台から始まり、今の姿があります。そして、その歴史は多くの歯科医院と同様に、人が集まらない、育たない、辞めていく、ということの中で、もがきながら、悪戦苦闘し、多くのことに挑戦してきたということに他なりません。「医療は人が全て」、スタッフや仲間が集まらないところに未来はありません。いかに人を集め、方向性や理念や価値観の異なるスタッフ同士をまとめ、成長を促し、組織づくりを行っていくのか。これは、全ての経営者にとって目を背けることが出来ず、しかし、その実現を心の底で渴望するテーマではないでしょうか。視察ツアー当日は、ひまわり歯科が実際に取り組みを行ってきた組織構築の様々な具体例、エピソードを挙げながら、理事長 岡本佳明氏や医院幹部よりお話をいただきます。



スタッフ人数とマネジメント 失敗の連続の中での学び

現在
140名



人数	3~10名	20~30名	50名~	100名~
発生するトラブル	院長の情熱 「スタッフへの過大な要求」	院内統制が難しくなる 「院内バラバラ事件」	派閥ができる 院長一人ではできないことが増加 「未知との遭遇事件」	ゼロスタッフ増加 「新人ベテランだけ」
人事対策	☑院長一人でコントロールできる	☑個人面談 ☑情報共有ツール ☑チーフ育成	☑事務方 ☑分業 ☑コアスタッフ育成	☑人が育つ仕組み
キーワード	☑語る	☑理念の言語化・文字化 (クレド)	☑人事評価制度 ☑ビジョンの共有 ☑理念の浸透	☑方向性 ☑習慣化 ☑多数決

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

人を育て、組織を作り、風土を育む 持続可能な3つのチカラ

01 教育機関



多様なニーズに応えられる
歯科医師、歯科衛生士を始めたこと
人財育成機関

従来の外来診療から、在宅、連携医療へと歯科医院は変遷しています。歯科医師、歯科衛生士はもちろんの事、管理栄養士や理学療法士などの育成を通して多様なニーズに応えられることを目指しています。

02 社会資本



「笑顔100年つながり愛」
赤ちゃんからお年寄りまで
笑顔で過ごせるまちづくり

「ひまわり歯科があって良かった」と、患者様だけでなくスタッフやご家族、近隣の同業者にもそう思っている。「つながりづくり」を目指しています。

03 組織風土



子育て、介護、シングル、障害、高齢など
様々な背景を持つスタッフが
働きやすい職場づくり

多様な背景を持つスタッフそれぞれが、「お互いさま」文化で助け合いながらワークライフバランスの実現に取り組んでいます。職場を単に収入を得る場ではなく、色々な世代、価値観を持った人たちが助け合い、生活する場と考え「ひまわり村」と表しています。

ひまわり歯科のひと

院内文化と教育により人を育てるということ



担当コンサルタント 解説

ひまわり歯科をはじめ訪れた際、誰もが最初に驚かされるのが、そこに集まる人たちの魅力です。院内を歩くと、歯科医師、歯科衛生士、受付、事務、保育士の方など、誰もがとても素敵な笑顔で挨拶をされ、声をかけてくれます。そこには、患者さんに安心して通ってもらい、診療を受けてもらうことが質の高い医療を提供するはじめての一步なのだという信念があり、これをスタッフ一人一人が安心して実行できる院内文化、風土があります。視察ツアー当日は、ぜひ、ひまわり歯科が何より大事にしている「人」に触れていただきたいと思います。ここではその一部に触れて頂ければと、4名の副院長のお姿やお考えを掲載させていただきます。人は目標にする人、憧れを抱く人に会ってこそ変わる、成長できると思っています。ぜひ、先生方の自慢の、今後の成長を期待されるスタッフ様と一緒に本ツアーにお越しください。



樋山 めぐみ (歯科医師)

2006年 広島大学歯学部卒業
2007年 ひまわり歯科(現医療法人社団湧泉会ひまわり歯科)入社
2014年 日本障害者歯科学会認定医取得
2022年 総合歯科学会シンポジスト
シンポジウム 「治療例に学ぶ Reflection on Clinical Action」
「ある知的障害者との15年の診療を振り返る」

2023年 日本障害者歯科学会シンポジスト
シンポジウム 「地域支援型多機能歯科診療所における障害者歯科の役割」
「女性活躍する歯科医院での取り組み」
現在 医療法人社団湧泉会ひまわり歯科
理事 副院長 外来長 障がい者歯科部門長

私は学生時代の授業で障がい者の歯科治療に興味を持ったことをきっかけに、15年以上障害者歯科に取り組んで参りました。障がい者に配慮した歯科診療はそれなりに取り組んできたつもりですが、やればやるほど、患者様が暮らしているこの地域のことを無視しては成り立たないと実感しております。その中の一つの経験ですが、40代の自閉スペクトラム症の患者で、元の歯は抜け落ちてしまい、入れ歯を作ったのですがなかなか口の中にはめていくこともできず、食事の際にもむせたり戻したりするなど食形態の配慮が必要になってきた方がおられました。入れ歯は使えない中、食形態を工夫しながら食事は食べているにもかかわらず、体重もみるみる落ちているのがわかり、入れ歯だけの問題で低栄養になっているのではないと思われましたが、病院に行って検査を受けようにも待つこともできないので、と受診もできないそうでした。そんな中いつも歯科に付き添ってこられていた患者の父親ががんで急逝し、母親と妹が付き添ってくるようになりました。明らかに

患者の介護をすることに少し許容量を超えた様子で、このままでは患者のみならず母親、妹も共倒れするのではないかと心配です。その患者の通所している施設に私も歯科検診で関わっているため、普段の生活の様子も定期的に知ることができ、患者と家族が当院にも定期的に通ってくださるので、情報共有しながら関わっております。しかし、この方のように生活の様子を知っていけることはまだまだ少ないです。今後2040年問題と呼ばれる、高齢者や有病者、障がい者の増加と、対応する医療介護職の深刻な不足が起こることがわかっております。今後一気に加速する問題に対し、今から地域で手を取り合いながら少なくなる専門職で地域住民のQOLを保ちつづけられるよう、近隣の歯科医療機関が、それぞれの取り組みや得意なことについて公開して、相互に協力、連携し合うことが重要だと考えています。当院は毎年10名以上の研修歯科医や歯科衛生士実習生を受け入れる教育機関でもあるため、後進へも知識や経験を伝え、将来の地域に貢献できる人材育成にも尽力して行きたいと思っています。



西中村 亮 (歯科医師)

2006年 広島大学歯学部卒業
2007年 公立みつぎ総合病院歯科
2009年 ひまわり歯科(現医療法人社団湧泉会ひまわり歯科)入社
現在 日本歯科麻酔学会認定医/日本障害者歯科学会認定医/歯科医師臨床研修指導歯科医

副院長、リスクマネジメント部門部長の西中村です。私は歯科麻酔学を学び、全身麻酔や静脈内鎮静法を施行する等の全身管理を担ったことのある経験から、院内の「医療安全」「患者安全」の責任者として、患者様およびスタッフの安全、医療事故予防、感染対策等について長年取り組んでまいりました。特に昨今はコロナウィルス感染症の大流行により患者様やスタッフの感染対策に対する意識が向上したり、様々なニュースや事件で企業や業界の安全性・品質管理に対するガバナンスが目ざされたりする等、歯科医療機関においても安心・安全な医療提供体制が構築されているかが問われる時代となりました。今後より一層の安全性の向上を目指していくと思います。医院規模が大きくなると、経験年数も年代も職種も違う人が増え、安全意識の統一を行うことが難しくなってきます。以前より私は院内で年に複数回の医療安全講習会を開催し、全スタッフに患者安全のための知識・技法の普及に努め、また随時、医療事故防止のためのシステム作りに関わってまいりました。この経験を生かし、2023年には当院において開催された「歯科医師臨床研修指導歯科医講習会」の中で、日本全国から参加された他院の

歯科医師に対して患者安全の講習を行いました。また、2023年は防火管理に係る自衛消防訓練を立案・指揮し、歯科診療所で行われることは全国的にも珍しい避難訓練を実施し、消防署の方と連携し、火災・地震等の非常事態時の動きを確認しました。当院では歯科麻酔専門医の常勤化に伴い、全身麻酔件数・静脈内鎮静法件数がともに急増し、施設基準も満たしたため、この度、日本歯科麻酔学会の準研修機関にも認定されました。歯科麻酔をかかったことのある私としても、歯科治療恐怖症や異常嘔吐反射、障害を持たれた方のような通常歯科治療が困難な患者様が頼れる歯科診療所になっていくことは喜びです。高齢者が急増すると同時に社会機能を担う働き手が減少する「2040年問題」を抱える日本において、高齢者でも安心して通院できる、職員は安全に働ける、専門医による高度な医療が受けられる「地域支援型多機能歯科」として当院は動き始めています。私は今年、日本歯科麻酔学会の「地域支援型多機能歯科推進ワーキンググループ」の委員の一人に任命されました。今後も院内外で皆様にとって喜ばれる歯科医療を目指してその職務を果たしていきたいと思っています。



前川 友紀 (歯科医師)

略歴
2005年 広島大学歯学部卒業
2012年 ひまわり歯科(現医療法人社団湧泉会ひまわり歯科)入社
現在 日本障害者歯科学会認定医/歯科医師臨床研修指導歯科医

副院長の前川友紀です。一般診療に加えて、矯正治療と精密な根管治療に従事しています。

ひまわり歯科では患者様が、最後まで自分の口で食べられるように、外来での一般診療に加えて食べれる外来や、高齢者や有病者への訪問診療含めた摂食嚥下の診療を通して医院全体で取り組んでいます。その中でも私は特に、矯正治療や小児の診療を通じて、健康な身体づくりを小児期からしていくためのアプローチをしています。

患者様の年代に応じて、歯科での必要な関わり方は変化していきますが、成人期に理想的な口腔内の状態や全身の健康状態をキープしたり、壮年期以降に加齢により機能が低下していくスピードや変化度合いをなるべく緩やかにしていくためには、身体づくりをしていく乳幼児期〜小児期に、どれだけ発育・発達の状態を理想的なラインに乗せてあげることが重要だと思っています。遺伝的要因だけでなく、育児の環境や口周りを含めた筋肉や身体の使い方次第で子ども達の発達の軌道は大きく変わっていきますので、正しい発達のレールに乗せてあげるサポートを診療を通しておこなうことの大切さを痛感しています。

具体的には、妊婦さんや乳幼児を子育て中の保護者に対して講義形式で知識をつけていただいたり、離乳食教室で食べ方の指導や栄養の指導をおこなったり、そもそも矯正治療が必要にならないように、口周りの筋肉の使い方、舌の位置などの指導(OMT)、身体の使い方の指導、お口ばかを予防して鼻呼吸を獲得させるなど、歯科医師だけではなく歯科衛生士や管理栄養士などとも協力して取り組んでいます。また、すでに治療という形で介入が必要となった場合にも、ただ歯並びを整えるだけではなく、原因となっている間違った筋肉の使い方や、癖を排除して、後戻りの少ない安定した歯並びを獲得できるような診療を心がけています。

矯正治療としては、従来のワイヤー矯正に加えて、マウスピース矯正を2022年末から導入し、2023年の一年を通じて約100名の患者様に新たに治療をスタートしていただき、大変好評です。小児期の関わりについては今後さらに新しい仕組みを構築しバージョンアップさせていく予定です。どの年代の患者様が来られてもただ歯を治すだけではなく患者様おひとりおひとりの健康づくりに寄与できるよう、当院の強みを活かした関わりができるように尽力していきたいと思っています。



久保 尚也 (歯科医師)

略歴
2014年 広島大学歯学部卒業
2014年 中国労災病院歯科口腔外科 歯科臨床研修修了
2015年 ひまわり歯科(現医療法人社団湧泉会ひまわり歯科)入社
現在 日本障害者歯科学会認定医/歯科医師臨床研修指導歯科医

副院長の久保尚也です。まずは私のメッセージをご一読頂きありがとうございます。私は現在、一般歯科治療に加えて高難度の歯周病治療、そして歯科用インプラント治療を専門として担っております。専門分野ゆえかもしれませんが、歯科医師として歯を失った方とお話する機会が非常に多いポジションになります。8020財団の統計調査によれば、日本人は第1に歯周病、第2にう蝕(虫歯)により歯を失っています。8020運動の成果もあってか日本国民の歯の残存数は年々増えてきておりますが、未だ歯を失う方は多く、その後の歯を補う治療のニーズが絶えない事を現場で実感しております。近年では口腔健康と全身の健康の関連性が様々な研究で示唆されており、少子高齢社会においていつまでも元気な人生を送る上で健康な口腔は切っても切り離せない密接な関係にあります。つまり歯を失うことは、その人の今後の人生に関わる重要な問題となります。歯周病治療やインプラント治療を通して患者様の健康維持に携われる事を嬉しく思います。当院は地域支援型多機能歯科診療所として、地域医療に貢献することを一つの使命としておりますが、歯周病治療やインプラント治療の専門性を高め患者様に提供する事も、また当院に課された使命であると考えております。

また、当院ではもう一つ、「教育機関」としての顔があります。厚生労働省認可のもと、単独型/管理型臨床研修施設として毎年多くの歯科研修医を受け入れており、当院より地域で活躍できる歯科医師を多く輩出しております。私自身も臨床研修指導歯科医として多くの研修医と接してきております。また、在籍する歯科医師も多く、研修医以降も持続して学べる環境を整えております。地域に根ざす歯科医師の1人として、地域医療のリアルな部分を、これから担う若手歯科医師たちに伝えることもまた、私の使命です。

未だかつてないほど歯科医療に対するニーズが増え複雑化する中で、地域に根ざす歯科医師として患者様に貢献し、また教育者の1人として人材育成を通して日本の歯科医療に貢献して参ります。



ひまわり歯科のひとが
さらに見える
公式instagramはこちら



歯科業界の未来に向けた取り組み

地域の歯科医院と総合病院や大学病院をつなぎ、高度な治療ニーズにも対応する

地域支援型多機能歯科診療所

食べる、話す、呼吸するなど、生きるうえで欠かせない役割をもつ口の健康を保つことは、健康寿命の延伸が叫ばれている現代において、最重要課題の一つだといえます。そのため、口腔機能の維持を担う歯科医の役割もこれまで以上に重要視されています。単にむし歯などの治療を行うだけではなく、生涯自分の歯で食べられるようサポートし、乳幼児から高齢者、全身疾患や障がいをもつ人まで、さまざまな患者の状態を考慮して適切な治療を提供することが求められています。しかし、実際にそのような対応ができる歯科医院の数はまだまだ足りていないのが現状です。

この問題を解決するために、各医療機関の連携(医科歯科連携、病院—診療所間の病診連携、診療所同士の診診連携、多職種連携)により機能を相互補完し、患者の多様な治療ニーズに対応しようという取り組みが進められています。そして、こうした動きのなかで期待されているのが、地域の歯科医院と総合病院や大学病院をつなぐ役割を担う「地域支援型多機能歯科診療所(医療機関)」です。地域支援型多機能歯科診療所とは、歯科専門医による専門的な歯科診療や訪問歯科診療、全身麻酔や全身管理が必要な患者の歯科診療などを行う医療機関で、歯科医師や歯科衛生士だけでなく多職種が連携しながら診療することができるため、専門性の高い治療を提供することができます。

このように、歯科業界や業界課題、地域医療の維持存続のために必要とされる地域支援型多機能歯科診療所ですが、決して形に捉われるわけではなく、専門性の幅と深さを有する地域の中核クリニックと、患者さん目線でより身近で通いやすい歯科クリニックとの間の有機的な連携こそが重要な視点であるといえます。



外部と連携して新しく挑戦すること

DX化に向けたIT企業との共同開発



VRゴーグルを利用した訪問診療などへの導入

歯科医師が海外で在宅勤務



現役女性歯科医師が、現場とつながり続ける。重症化予防の時代において、患者に直接触れることが医療行為ではなく、画面越しでの問診、予防指導も重要な医療となる。

邑南町の歯科医療支援



離島・山間部診療への足掛かりとしての支援。歯科医師不足に苦しむ地域へ歯科医療チームの派遣を行うことで、広域での医療連携体制の構築を行う。

全身麻酔による歯科治療の更なる普及



障がい児・者や歯科治療恐怖症患者などが安心して歯科治療を受けられるための土台作り。

ワークライフインテグレーションの実現



多様化する生活様式へ対応することによる、従業員満足度の向上。

摂食・嚥下研究会の有料オンラインセミナーの開始



「摂食・嚥下治療」という分野において、地域を超えたネットワークの構築と知識の共有を行う。

歯科衛生士専門学校の設立(2027年4月開校予定)



業界課題である歯科衛生士不足の解消を目的に、歯科衛生士の価値や社会的地位の向上を果たすべく、医院近隣に、歯科衛生士専門学校の設立を計画しています。

医院スタッフが
地域支援型多機能
歯科診療所
を解説しています



ぜひご覧ください